

大田区新基本計画

近年の区民ニーズ整理

# 目次

1-1.調査方法	3
2-1.暮らしやすさ	4
2-2.重要施策	5
3-1.防災対策	8
3-2.防犯対策	11
3-3.子育て支援	13
3-4.高齢者福祉の実現	16
3-5.環境対策	18

# 1-1.調査方法

## 住民ニーズ調査 調査概要

- 平成30年度に実施した以下のアンケート調査結果について、施策要望等に関する区民ニーズを整理した。

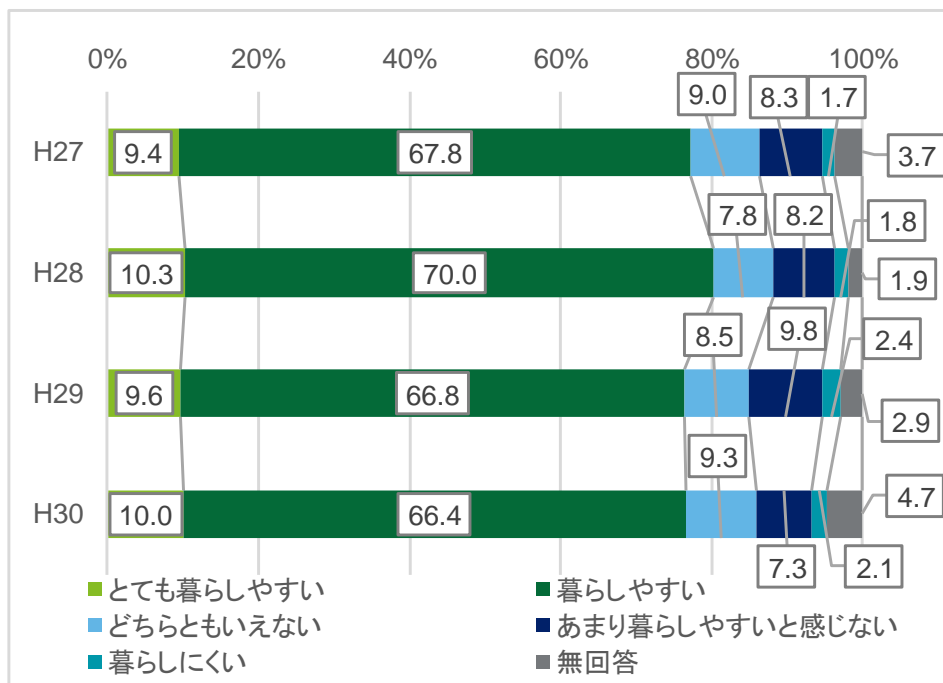
	平成30年度 大田区10か年基本計画 「おおた未来プラン10年(後期)」に係る 区民アンケート調査 (以下「基本計画アンケート」という。)	平成30年 大田区政に関する世論調査 (以下「大田区世論調査」という。)
目的	未来プラン(後期)の計画期間(平成26～30年度)満了にあたり、これまでの取り組みの成果を確認するとともに、区政に関する区民の意向を把握し、今後の政策形成につなげる	大田区の各行政分野における区民の意向・要望・生活実態を把握するとともに、今後の区政運営や政策立案の基礎資料とする(区民の方の意見を伺う方法の1つとして、毎年実施)
対象者	大田区内に居住する満18歳以上の男女個人	大田区内に居住する満18歳以上の男女個人
対象数	2,400人	2,000人
回収数・率	777人(32.4%)	1,076人(53.8%)
抽出方法	層化無作為抽出	層化無作為抽出
調査方法	配付は郵送方式。回答収集は、郵送または電子申請方式	配付は郵送方式。回答収集は、郵送または電子申請方式
調査期間	平成30年7月6日～30日	平成30年7月12日～31日

## 2-1.暮らしやすさ

### 暮らしやすさと満足度

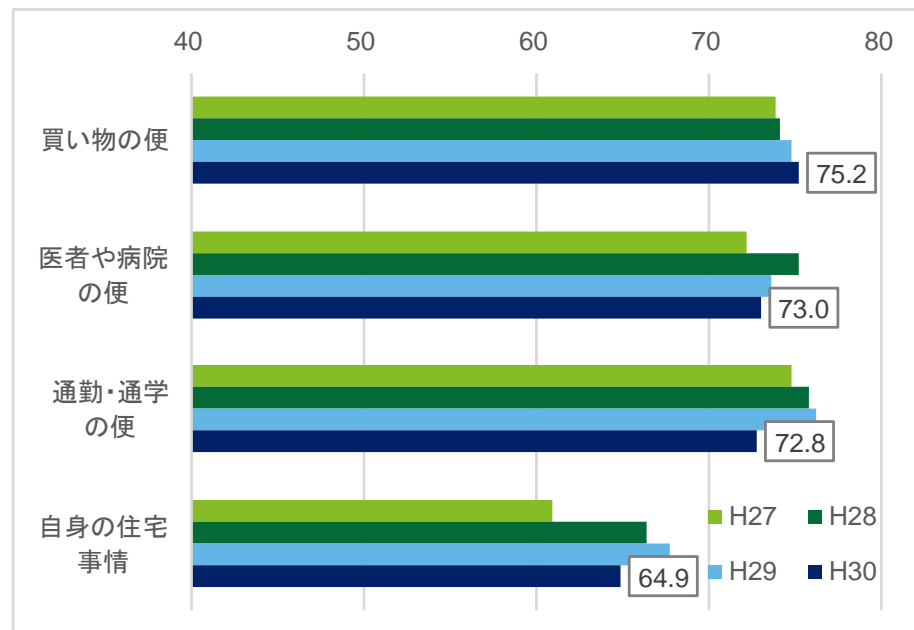
#### 住んでいるまちの暮らしやすさ

- 大田区世論調査では、暮らしやすさに関して、毎年約8割近くの人が「とても暮らしやすい」・「暮らしやすい」と回答している。
- 一方、「あまり暮らしやすいと感じない」・「暮らしにくい」と回答した人は1割程度にとどまっており、大田区は暮らしやすいと感じている区民が多い様子が伺える。



#### 生活環境の満足度

- 暮らしやすさの根拠として、生活環境の満足度に関する設問では、満足している割合（「満足している」「ほぼ満足している」）が、「買い物の便（平成30年調査：75.2%）」、「医者や病院の便（同：73.0%）」、「通勤・通学の便（同：72.8%）」について継続して高くなっている。
- 日常生活における利便性が高いことが暮らしやすさにつながっていると考えられる。



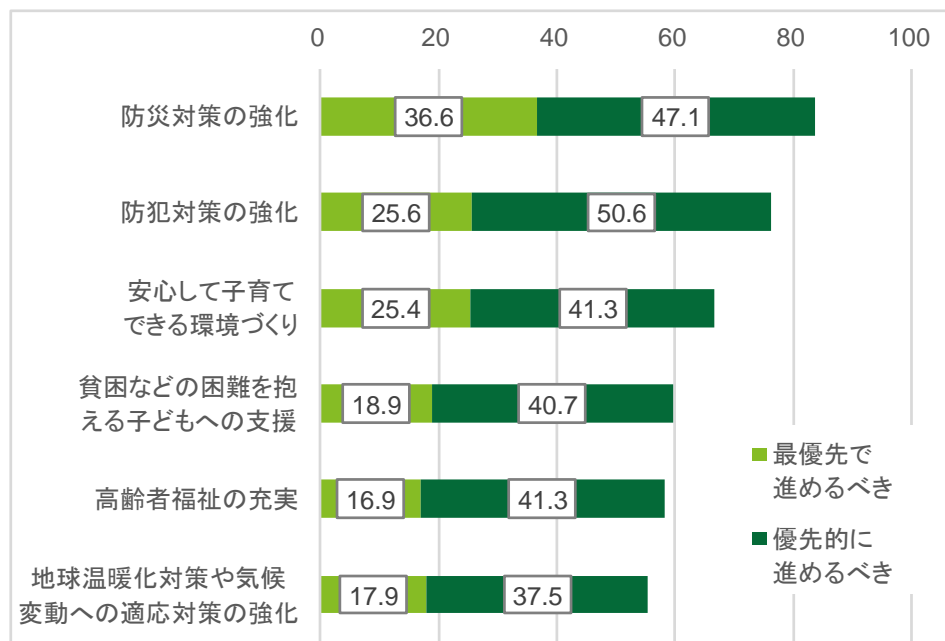
出典：平成27～30年「大田区政に関する世論調査」結果報告

## 2-2.重要施策

### 施策に対する要望

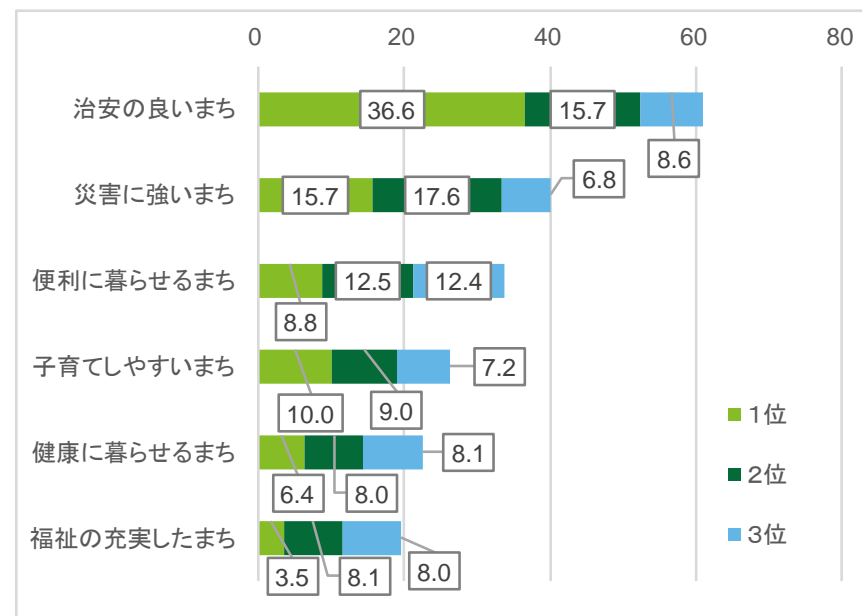
#### 重視していくべき区の施策

- 基本計画アンケートでは、重視すべき取り組み(最優先で・優先的に進めるべき)として、「防災対策の強化(計83.7%)」と「防犯対策の強化(計76.2%)」の2つが優先すべき施策として多く選ばれている。



#### 大田区の将来イメージ

- お住まいのまちに期待する将来のイメージでも同様に、「治安の良いまち」と「災害に強いまち」の2つが、特に多くなっている。
- その他、「便利に暮らせるまち」「子育てしやすいまち」「健康に暮らせるまち」「福祉の充実したまち」を期待する割合が高くなっている。



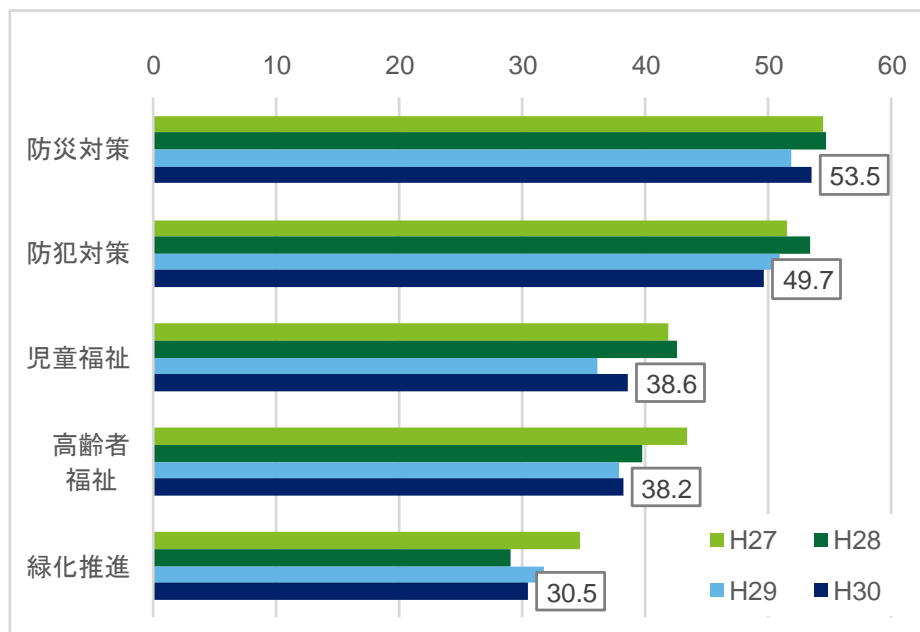
出典:「おおた未来プラン10年(後期)」に係る区民アンケート調査報告書

## 2-2.重要施策

### 施策に対する要望

#### 施策要望

- 大田区世論調査でも、同様に「防災対策(平成30年調査:53.5%)」と「防犯対策(同:49.7%)」の2つが各年度において、高い数値を維持している。
- 次いで、「児童福祉」、「高齢者福祉」、「緑化推進」に対する要望が高くなっており、基本計画アンケートと合わせ、この5分野が区民のニーズが高い分野と考えられる。



#### 分析分野について

→ 次章では、区民から重点施策として多く選ばれた5分野「防災対策」「防犯対策」「子育て」「高齢者福祉」「環境対策」に関する区民ニーズのアンケート結果を整理する。

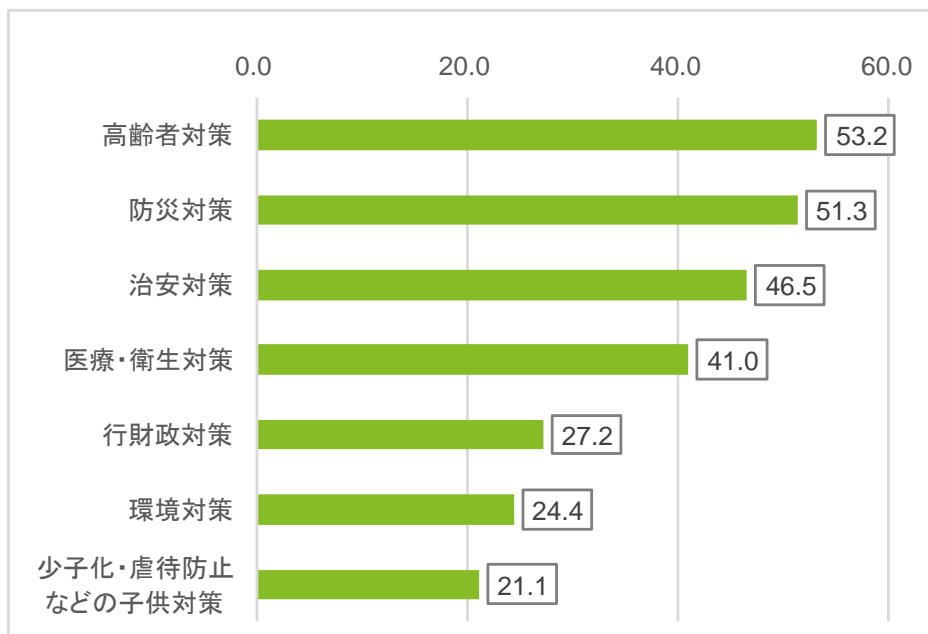
出典:平成27~30年「大田区政に関する世論調査」結果報告

## 2-2.重要施策

### 東京都の傾向との差異

#### 東京都民における重点施策

- 東京都民を対象としたアンケートでは、力を入れてほしい施策としては、「高齢者対策(53.2%)」が最も高く、次いで「防災対策(51.3%)」、「治安対策(46.5%)」、「医療衛生対策(41.0%)」となっている。
- 大田区の結果と比較すると、高齢者施策と医療施策が高くなっている点、子供施策が低くなっている点で差異が見られる。



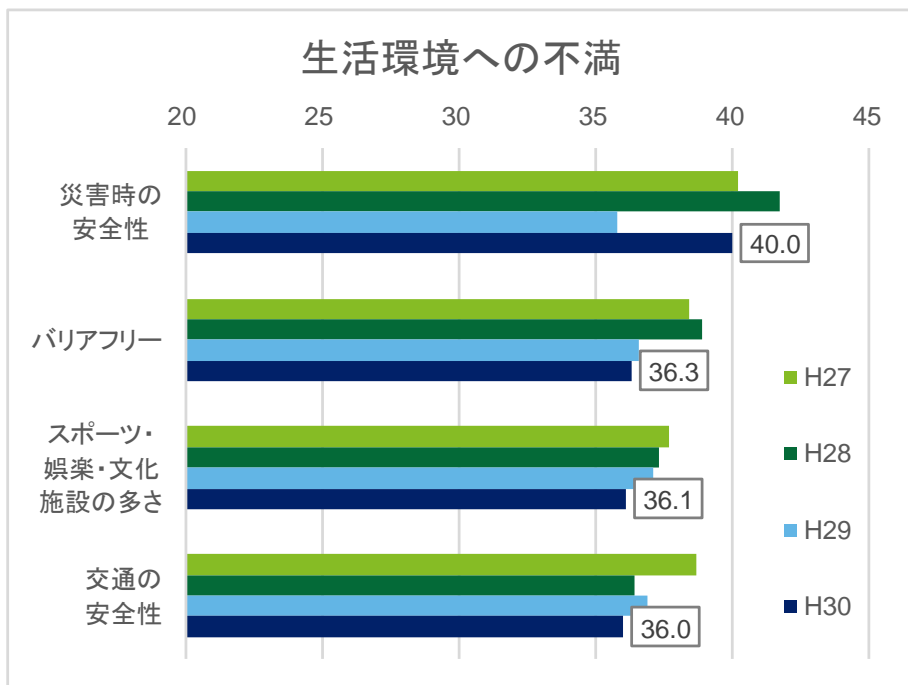
出典:平成30年「都民生活に関する世論調査」結果

# 3-1.防災対策

## 防災への不満と発災時の不安について

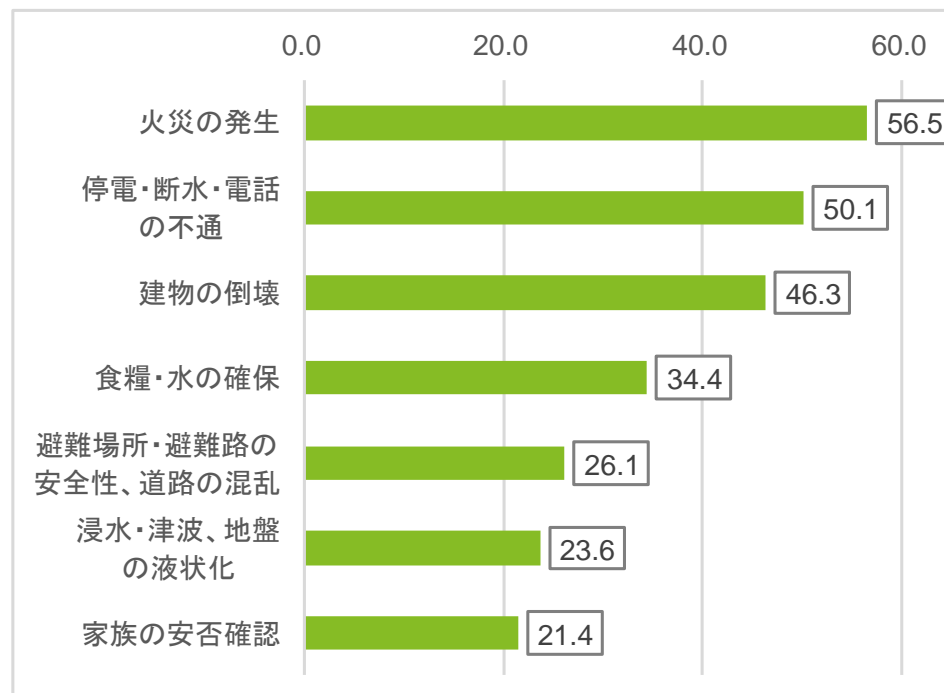
### 生活環境への満足度

- 大田区世論調査の満足度調査において、最も不満が高いのは、平成29年の4位を除き、過去4年間では毎年「災害時の安全性」となっている。



### 大震災発生時に不安だと思うもの

- 平成30年大田区世論調査で大震災発生時に不安だと思うものの設問では、「火災の発生」が56.5%で最も高く、次いで「停電・断水・電話の不通」が50.1%、「建物の倒壊」が46.3%となっている。



出典：平成27～30年「大田区政に関する世論調査」結果報告

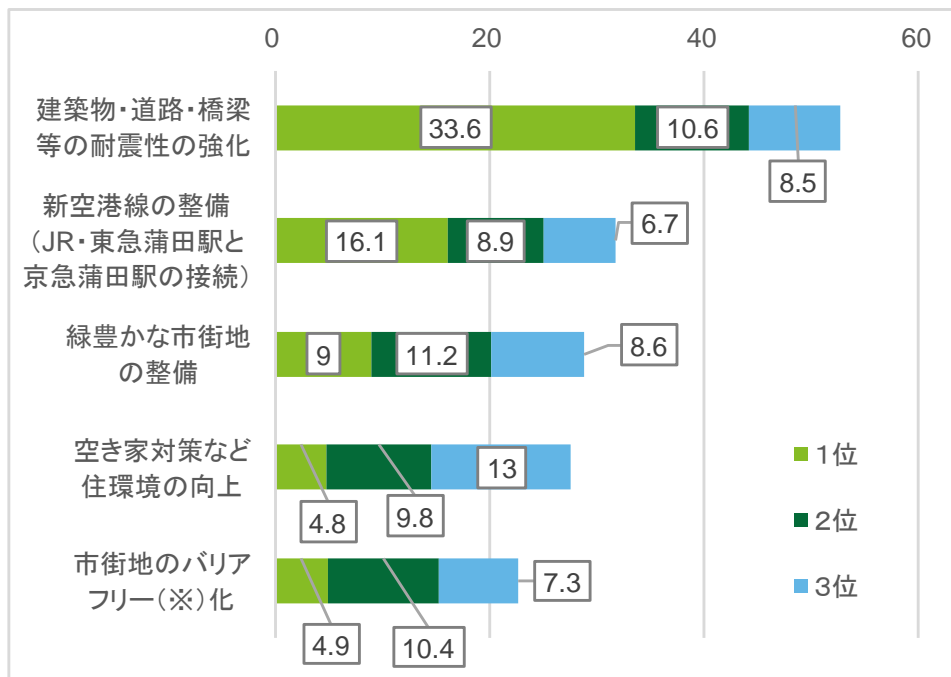


# 3-1.防災対策

## 住みよいまちづくりと防災訓練について

### 「住みよいまちづくり」に関して力を入れていくべき課題

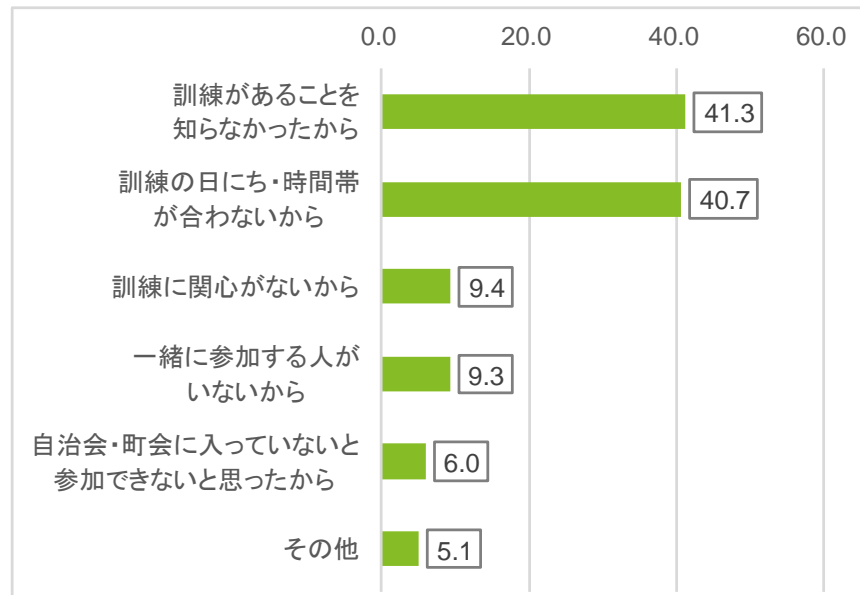
- 基本計画アンケートにおける、「住みよいまちづくり」に関して力を入れていくべき課題を問う設問では、防災に関する課題である「建築物・道路・橋梁等の耐震性の強化」が特に多く選択されている。



出典:「おおた未来プラン10年(後期)」に係る区民アンケート調査報告書

### 防災訓練に参加していない理由

- 一方、平成30年大田区世論調査で、大地震に備えて普段から行っていることを確認したところ、防災訓練などへの定期的な参加を選択した人の割合は13.7%に留まっている。
- 防災訓練などへの参加を選択しなかった人にその理由を聞いた結果、「訓練があることを知らなかったから」「訓練の日にち・時間帯が合わないから」を選択した人がそれぞれ4割を超え、「訓練に関心がない」を選択した人は1割未満となっている。(複数選択可)



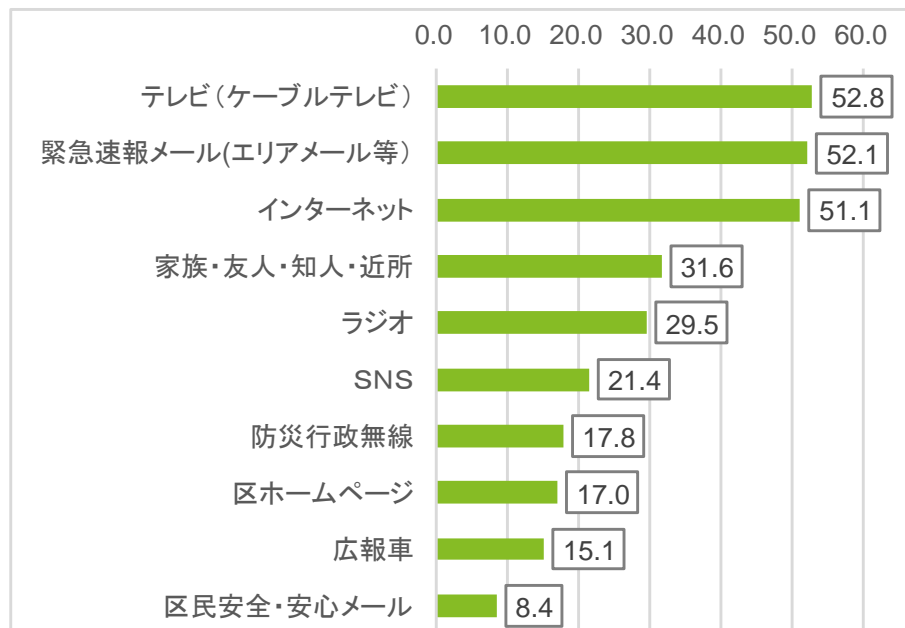
出典:平成30年「大田区政に関する世論調査」結果報告

## 3-1.防災対策

### 防災情報の周知と安心感の変化について

#### 災害情報の入手手段

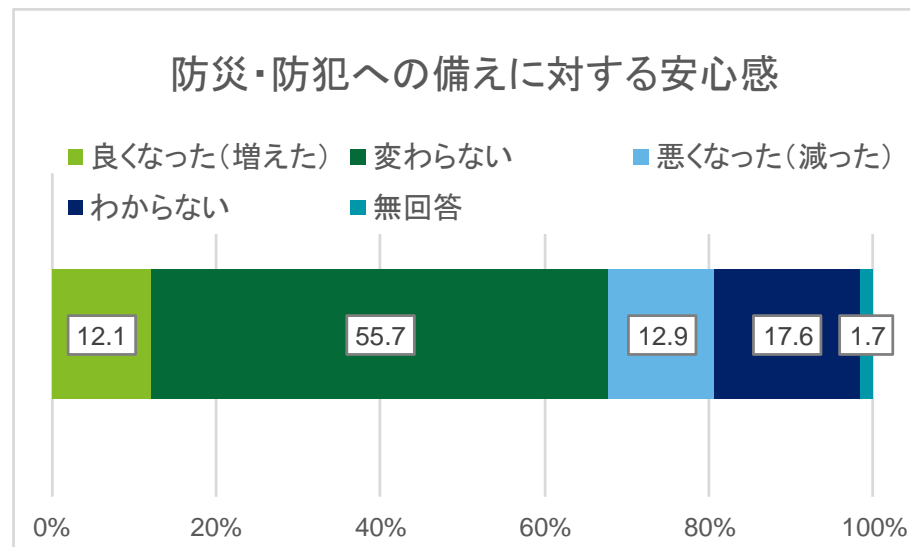
- 平成30年大田区世論調査における災害発生時の災害情報の入手手段に関する設問では、「テレビ(52.8%)」「緊急速報メール(52.1%)」「インターネット(51.1%)」の3種が多くなっている。
- 若い世代はインターネットやSNSを、災害弱者である高齢者は家族や友人・知人、ラジオ、防災行政無線、広報車を選択する人が多くなっている。



出典:平成30年「大田区政に関する世論調査」結果報告

#### 防災・防犯への備えに対する安心感

- 基本計画アンケートにおいて「防災・防犯への備えに対する安心感」について最近5~10年間における変化を確認したところ、「変わらない」が55.7%と最も多く、「良くなった」は12.1%、「悪くなった」は12.9%となっている。



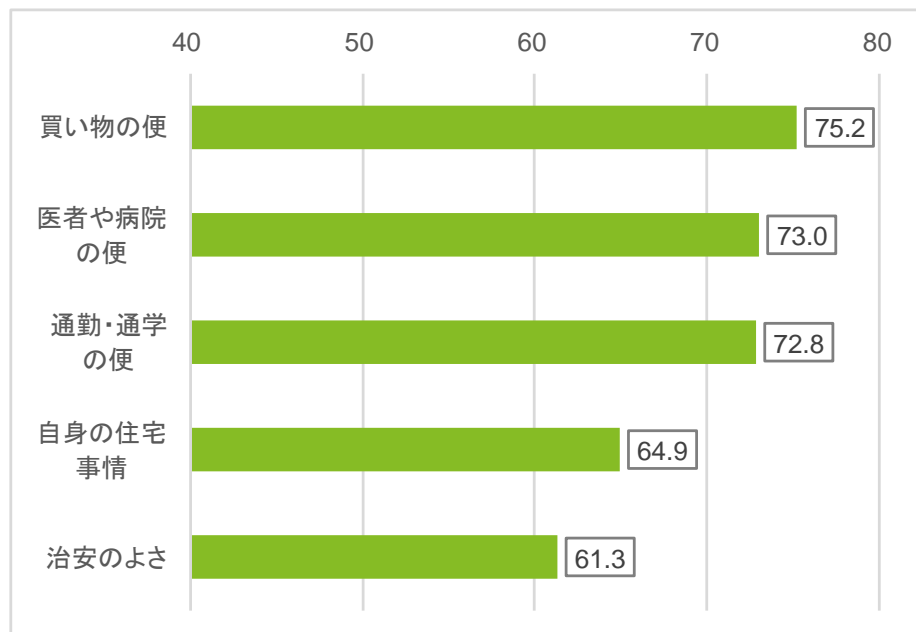
出典:「おおた未来プラン10年(後期)」に係る区民アンケート調査報告書

## 3-2.防犯対策

### 防犯の満足度と犯罪発生状況

#### 生活環境への満足度

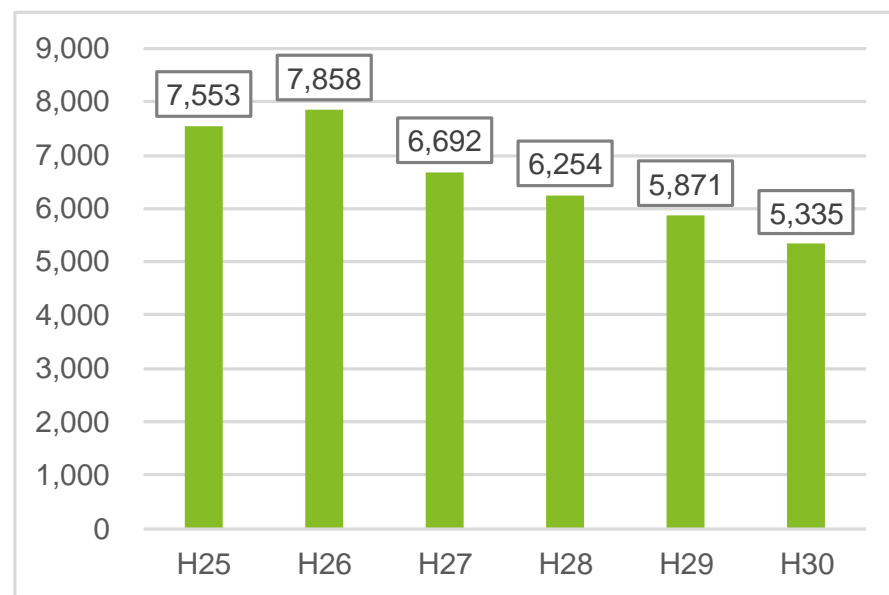
- 平成30年大田区世論調査の満足度調査において、「治安のよさ」は61.3%の人が満足していると回答している。



出典:平成30年「大田区政に関する世論調査」結果報告

#### 犯罪発生件数の推移

- 大田区の刑法犯認知件数は、平成26年度から減少傾向にあり、平成25年度から3割程度減少している。
- 人口1,000人当たりの刑法犯認知件数は7.3件で23区平均を大きく下回り、23区中8番目に低くなっている。



指標	大田区	23区平均	23区中順位
平成30年度人口1,000人当たりの刑法犯認知件数(件/千人)	7.3	11.5	8

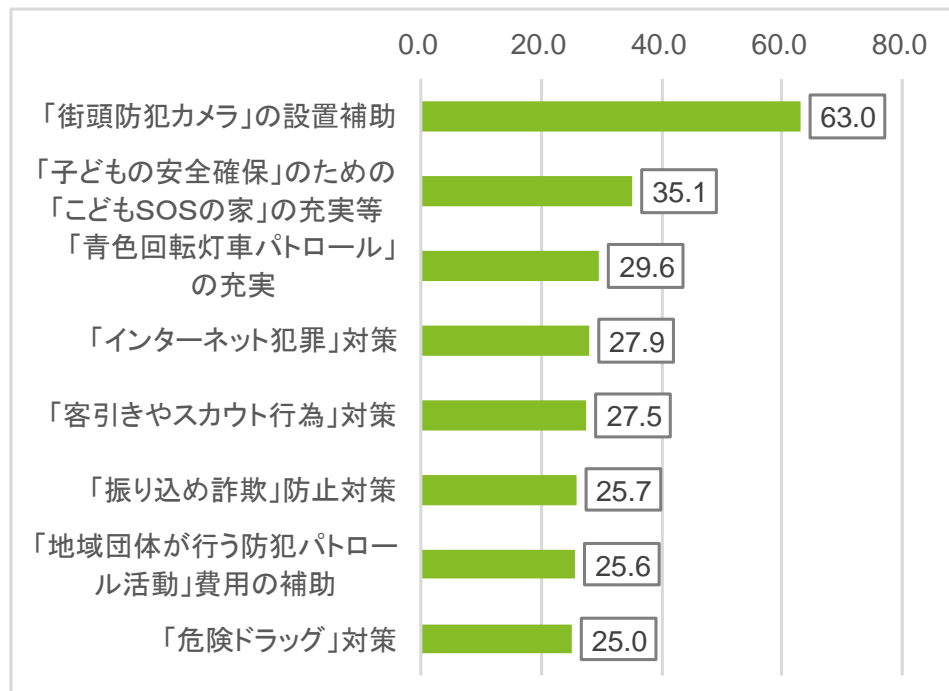
出典:警視庁HP 区市町村の町丁別、罪種別及び手口別認知件数

## 3-2.防犯対策

### 防犯に強いまちづくり

#### 力を入れてほしい防犯施策

- 平成30年大田区世論調査における力を入れてほしい防犯施策に関する設問では、「街頭防犯カメラの設置補助」が63.0%で特に高くなっている(大田区では現在、自治会・町会等の地域団体へ防犯カメラ設置費用を補助している)。
- 近年、犯罪や事故映像の公表やドライブレコーダーの普及により、防犯カメラの有用性を感じているものと考えられる。



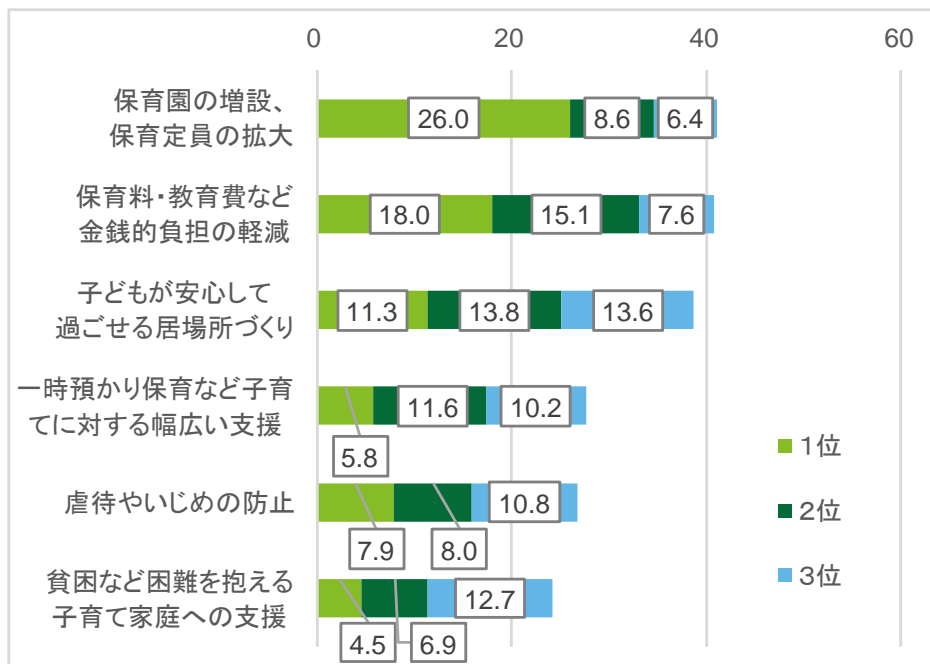
出典:平成30年「大田区政に関する世論調査」結果報告

### 3-3.子育て支援

#### 少子社会への対応

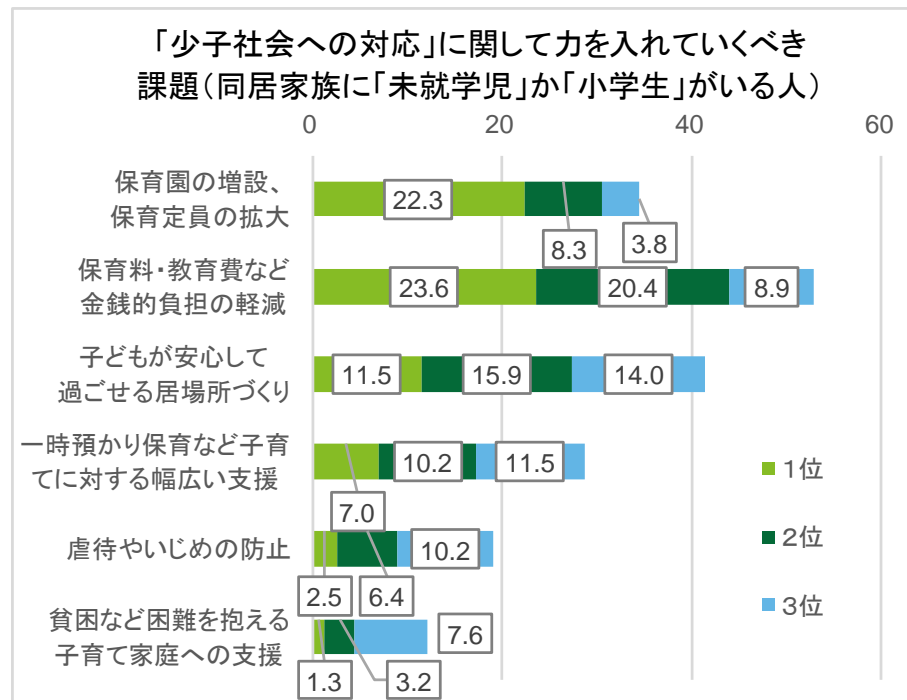
##### 「少子社会への対応」に関して力を入れていくべき課題

- 基本計画アンケートにおける「少子社会への対応」に関して力を入れていくべき課題を問う設問では、「保育園の増設、保育定員の拡大」、「保育料・教育費など金銭的負担の軽減」、「子どもが安心して過ごせる居場所づくり」の3つが多く選択されている。



##### 「少子社会への対応」に関して力を入れていくべき課題 (子供のいる家庭)

- 「少子社会への対応」に関して力を入れていくべき課題について、実際に未就学児または小学生の子どもが世帯内にいる人の回答では、「保育料・教育費など金銭的負担の軽減」が最も多く、半数を超えており、「子どもが安心して過ごせる居場所づくり」が2番目に高くなっている。



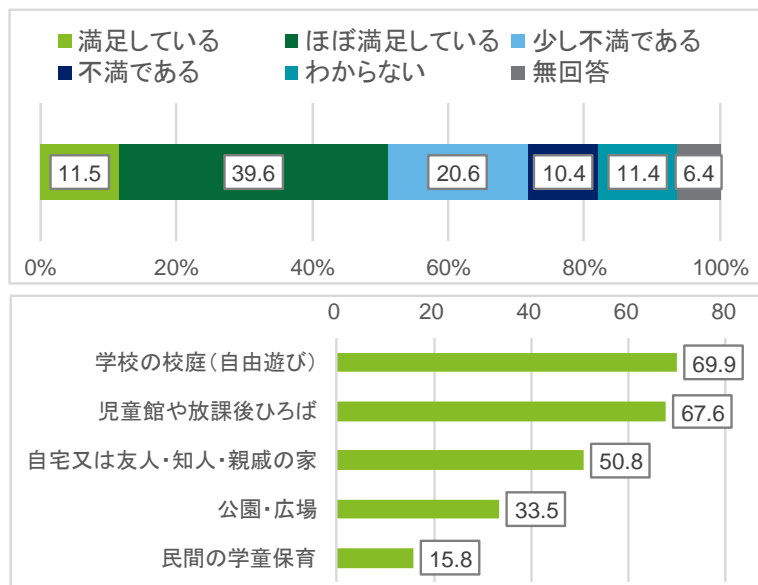
出典:「おおた未来プラン10年(後期)」に係る区民アンケート調査報告書

### 3-3.子育て支援

#### 少子社会への対応

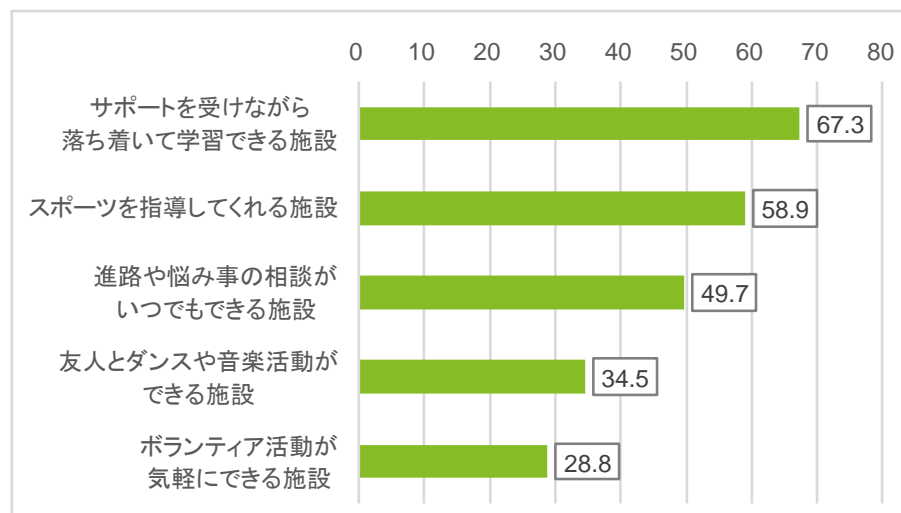
##### 子どもが安心して過ごせる居場所

- 平成30年大田区世論調査における生活環境の満足度に関する設問で、「公園や子どもの遊び場」について、「満足している」「ほぼ満足している」を選択した人は51.1%、「不満である」「少し不満である」を選択した人は31.0%となり、満足している人の割合が高い。
- 平成29年度の小学生以下の子の保護者を対象とした区の施策検証等に向けた大田区民意識調査(以下、「区民意識調査(保護者)」という。)における、放課後に子どもが安心して楽しく遊べると思う場所を問う設問では、「学校の校庭(69.9%)」「児童館や放課後ひろば(67.6%)」が多く選択されている。



##### 放課後を過ごす公共施設

- 29年度区民意識調査(保護者)において、小学生の子どもがいる保護者を対象に、子どもが中高生になったときに放課後の時間を過ごす場としてどのような公共施設があればいいと思うかを問う設問では、「サポートを受けながら落ち着いて学習できる施設」が67.3%と最も多く、次いで「スポーツ指導してくれる施設」が58.9%、「進路や悩みごとの相談がいつでもできる施設」が49.7%となった。



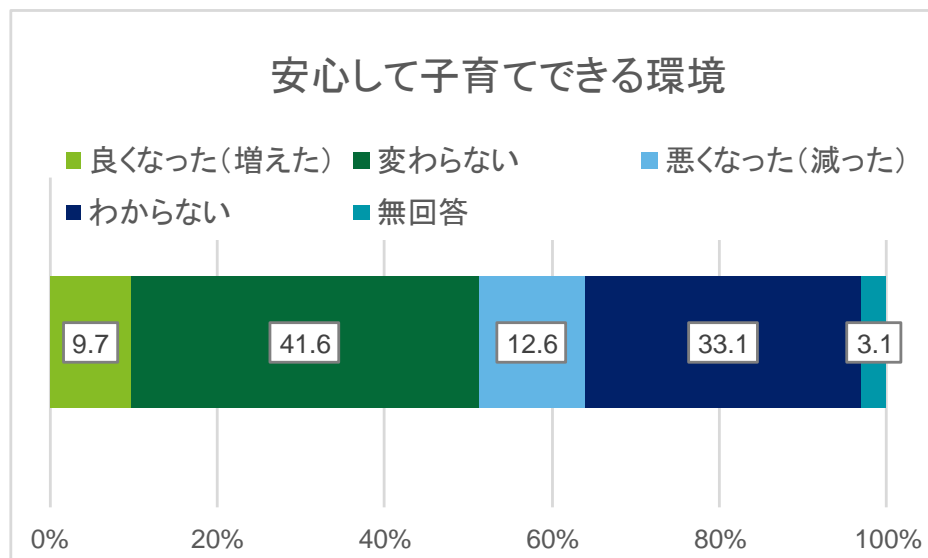
出典:平成30年「大田区政に関する世論調査」結果報告  
平成29年度区の施策検証等に向けた大田区民意識調査報告書  
(小学生以下の子の保護者の方対象)

### 3-3.子育て支援

#### 安心して子育てできる環境の変化

##### 安心して子育てできる環境

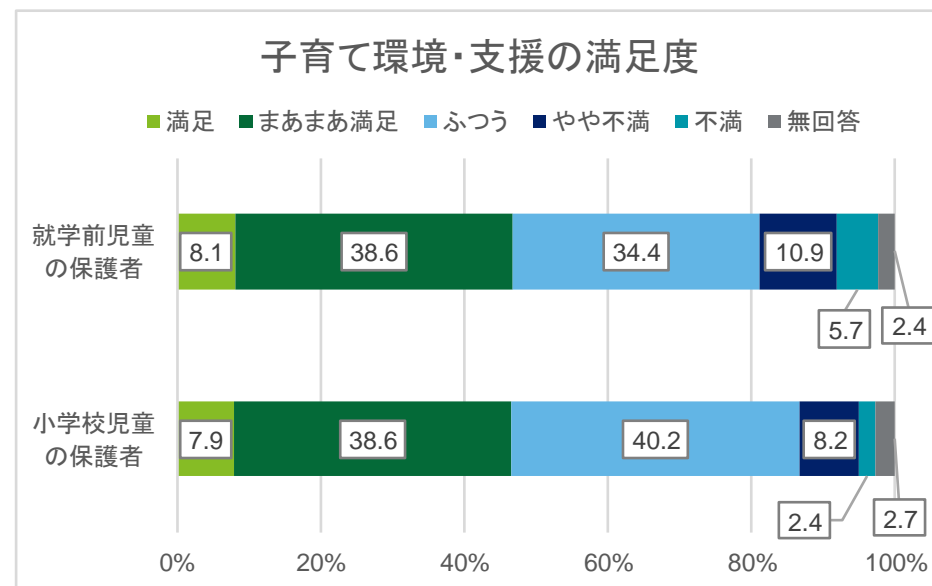
- 基本計画アンケートにおいて、「安心して子育てできる環境」について最近5～10年間における変化を確認したところ、「変わらない」が41.6%で最も多く、「良くなった」が9.7%に対し「悪くなった」が12.6%となっている。



出典:「おおた未来プラン10年(後期)」に係る区民アンケート調査報告書

##### 子育て環境・支援の満足度

- 平成30年11～12月に実施した大田区子ども・子育て支援事業計画策定に向けたアンケート調査で子供を持つ保護者へ「子育て環境・支援の満足度」を確認したところ、「満足」「まあまあ満足」が就学前児童で46.7%、小学生で46.5%となり、満足している人の割合が高い。
- 「不満」「やや不満」は、就学前児童で16.7%、小学生で10.6%でいずれも少ないが、就学前児童の方が比較的多くなっている。



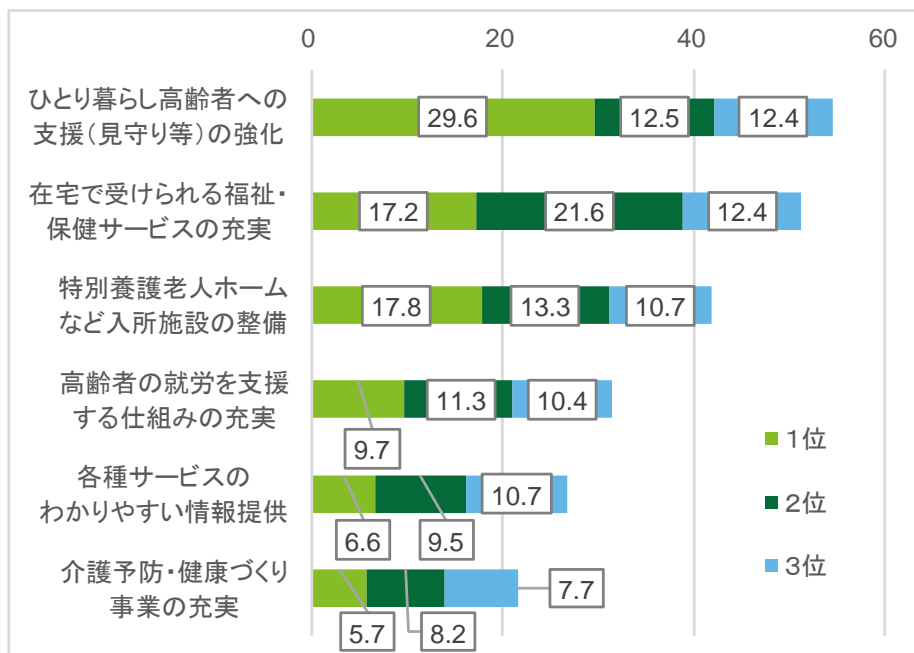
出典:大田区子ども・子育て支援事業計画策定に向けたアンケート調査報告書

## 3-4.高齢者福祉の実現

### 高齢社会への対応

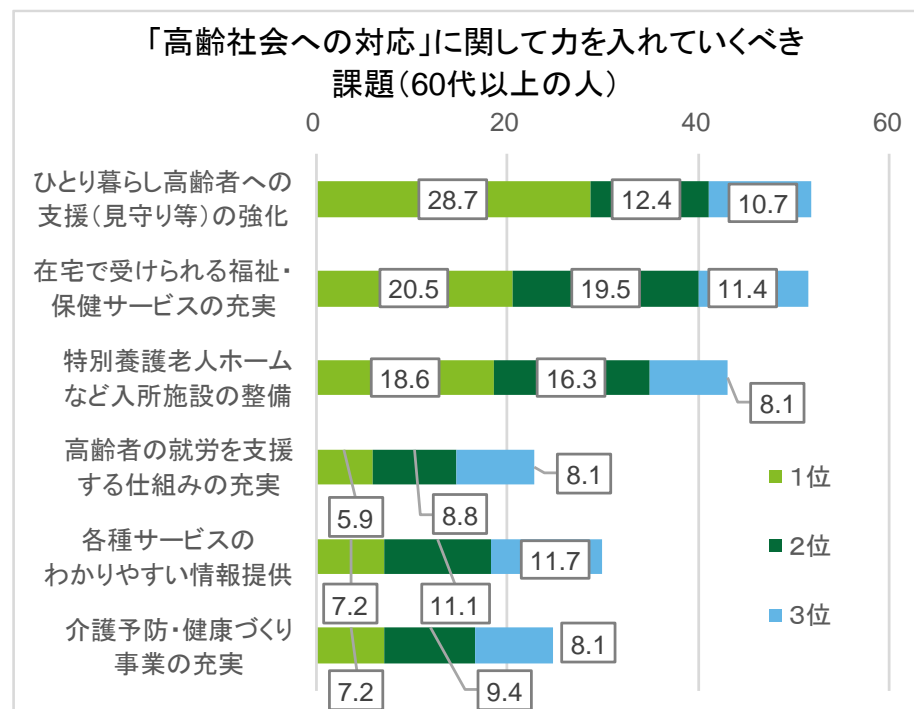
#### 「高齢社会への対応」に関して力を入れていくべき課題

- 基本計画アンケートにおける「高齢社会への対応」に関して力を入れていくべき課題を問う設問では、「ひとり暮らし高齢者への支援の強化」、「在宅で受けられる福祉・保健サービスの充実」、「特別養護老人ホームなど入所施設の整備」の3つが多く選択されている。



#### 「高齢社会への対応」に関して力を入れていくべき課題 (60歳以上の人)

- 「高齢社会への対応」に関して力を入れていくべき課題についての60歳以上の人の回答では、上位3つは同じであったが、「高齢者の就労を支援する仕組みの充実」が少なく、「各種サービスのわかりやすい情報提供」が多くなっている。



出典:「おおた未来プラン10年(後期)」に係る区民アンケート調査報告書



## 3-4.高齢者福祉の実現

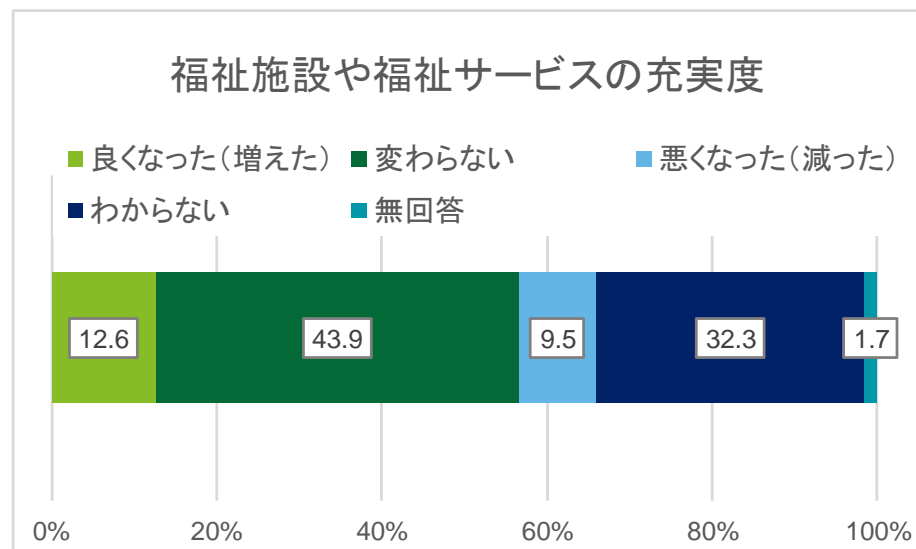
### 高齢社会への対応

「高齢社会への対応」に関して力を入れていくべき課題  
(その他自由記述)

- 高齢社会への対応に向けて取り組むべき課題として、その他の自由記述欄には、以下のような内容が提案されている。
  - ✓ 高齢者の活躍を支援する仕組みの充実
  - ✓ 介護サービス事業者への支援強化
  - ✓ 介護保険の充実

福祉施設や福祉サービスの充実度

- 基本計画アンケートにおいて「福祉施設や福祉サービスの充実度」について最近5～10年間における変化を確認したところ、「変わらない」が43.9%で最も多いが、「良くなった」の12.6%が「悪くなった」の9.5%を上回っている。



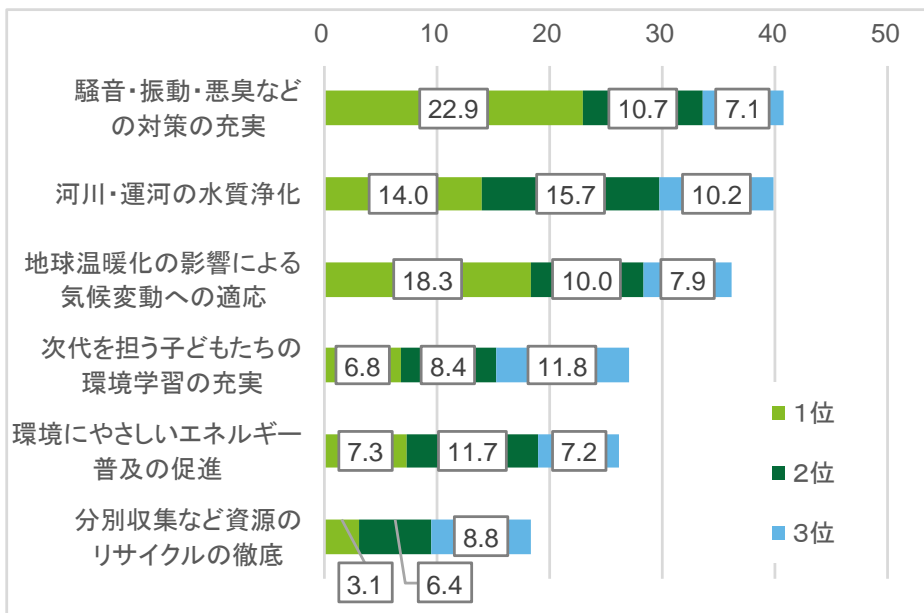
出典:「おおた未来プラン10年(後期)」に係る区民アンケート調査報告書

# 3-5.環境対策

## 環境問題への取り組み

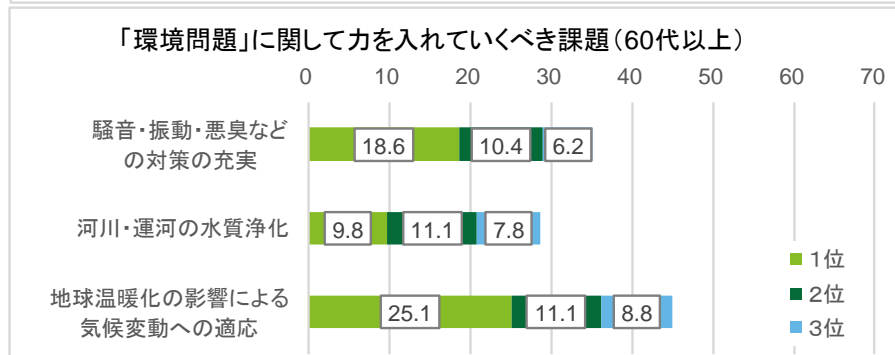
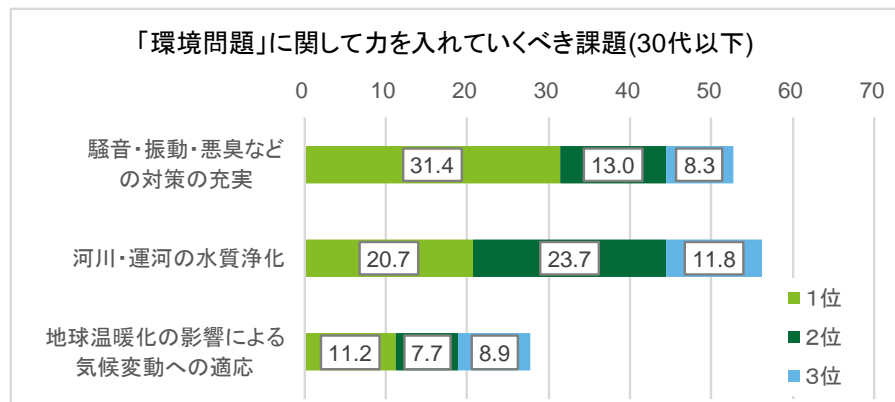
### 「環境問題」に関して力を入れていくべき課題

- 基本計画アンケートにおける「環境問題」に関して力を入れていくべき課題を問う設問では、「騒音・振動・悪臭などの対策の充実」「河川・運河の水質浄化」が多く選択されている。
- また、「地球温暖化の影響による気候変動への適応」が3番目に高くなっている。



### 「環境問題」に関して力を入れていくべき課題(年代別)

- 当該回答結果を年代別にみると、30代以下の若者層では「河川・運河の水質浄化」「騒音・振動・悪臭などの対策の充実」が50%を超え、多く選択されている一方、60代以上の高齢者層では「地球温暖化の影響による気候変動への適応」が最も高くなっている。



出典:「おおた未来プラン10年(後期)」に係る区民アンケート調査報告書

## 3-5.環境対策

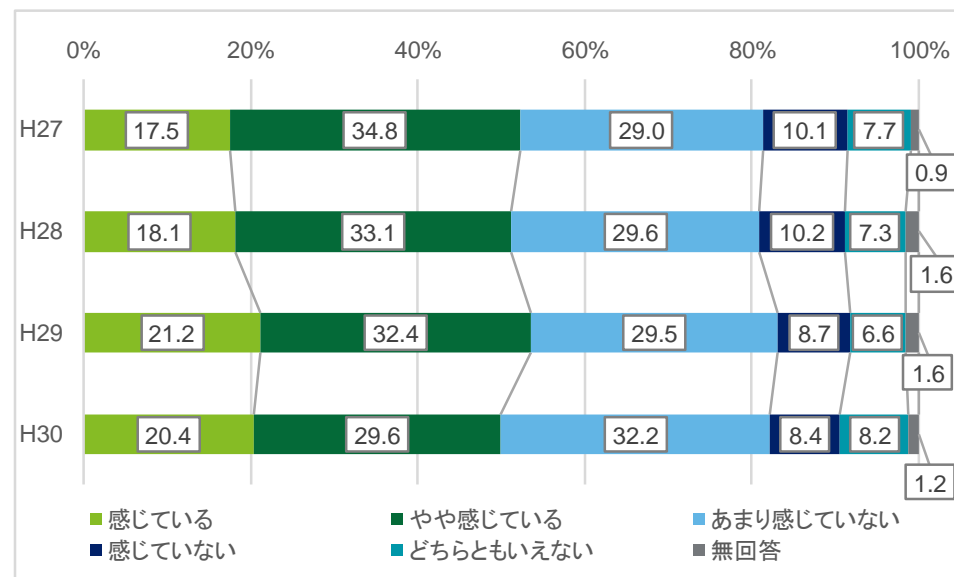
### 環境問題への取り組み

#### 「環境問題」に関して力を入れていくべき課題 (その他自由記述)

- 環境問題への対応に向けて取り組むべき課題として、その他の自由記述欄には、ごみ問題に関する意見が多く、以下のような内容が提案されている。
  - ✓ 海洋プラスチック問題への対応
  - ✓ ごみ収集に関するルールの徹底
  - ✓ カラス対策
  - ✓ 河川堤防斜面等の緑化

#### 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか

- 平成30年大田区世論調査において、身近な場所で水や緑に親しめると感じるかを問う設問では、親しみを「感じている」「やや感じている」人の割合が50.0%で、「感じていない」「あまり感じていない」人の割合40.6%を上回っている。
- ただし、平成30年度調査では親しみを「やや感じている」と回答した人の割合が大きく下がっており、全体的な満足度の低下につながっている。



出典:「おおた未来プラン10年(後期)」に係る区民アンケート調査報告書

出典:平成30年「大田区政に関する世論調査」結果報告